

令和6年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立八重小学校	校長	江崎 繁	生徒指導主事	松本 浩司
取組事例名	『八重小文化祭 –カルチャーフェスティバル–』				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
<p>◎児童一人ひとりが、自分の好きなことや得意なことを生かして自己表現することを通して、自己肯定感や自己効力感を高める。</p> <p>○お互いのよさやがんばりを認め合うことを通して、児童間のつながりを深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさを理解し、進んで自分を表現しようとする児童</li> <li>・人による違いを理解し、お互いのよさを認め合い、尊重しようとする児童</li> </ul>



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会行事の一環として、一人ひとりが自分のよさを発揮し、互いに認め合うことを通して、学校全体のつながりを深めることをねらいとして、「八重小文化祭–カルチャーフェスティバル–」を計画した。</li> <li>①全校朝会で、児童会役員が、八重小文化祭の主旨を全校児童に説明し、「ステージ発表」と「展示発表」の2つについて参加を呼びかけた。エントリーは、一人一発表とし、個人やグループなど、自由に募集した。</li> <li>②練習や準備は、原則、休憩時間等を使って児童が自分達で計画的に行うようにした。練習期間中は、休憩時間になると、様々な場所で練習をしたり、作品づくりに取り組んだりする児童の姿が見られた。</li> <li>③当日の運営は、児童会役員を中心に6年生が協力して行った。司会進行だけでなく、ステージワーク、発表者の補助などを積極的に行った。</li> <li>④ステージ発表では、ダンス、歌、リコーダー演奏、神楽、落語、書道パフォーマンス、クイズ、お笑い、一発芸等。展示発表では、絵やイラスト、書道等様々な作品が展示され、それぞれに自分の得意なことや好きなことを生かした個性溢れる発表があり、とても盛り上がった。</li> <li>⑤文化祭のエンディングは、職員もバンド演奏を披露し、八重小学校校歌のロックバージョンを児童と大合唱した。</li> </ul>	<p>児童にめあてをもたせるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい児童会行事に児童の積極的な参加を促すために、全校朝会で、文化祭の主旨を丁寧に説明した。</li> <li>・その際、職員が得意な習字や絵などを紹介することで、児童が文化祭の目的を理解し、意欲的に参加できるようにした。</li> </ul> <p>児童の意欲を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の自由な発想を活かすために、必要な道具の使用や衣装など、可能な範囲で児童の要望に応えるよう配慮した。</li> </ul> <p>児童の頑張りを認め、価値付けるために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表した児童が、「やってよかった。」と思えるようにするために、5・6年生を中心になって、感じたことやいいなと思ったことを「感謝状」に書いて、発表者全員に渡した。</li> </ul>



3 成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○普段の学校生活や授業ではなかなか見ることができない児童のよさや得意なことを知ることができてよかった。発表した児童にとっても、自分を表現し、認めてもらうよい機会となった。自己肯定感に関する児童アンケートの結果も、肯定的回答が昨年度の74%から92%へと上昇した。</li> <li>○文化祭後に「感謝状」を取り入れたことで、参加してくれた児童に感謝の気持ちを伝えることができたことや、発表した児童も「やってよかった」という満足感を感じることができてよかった。</li> <li>○児童会役員を中心に、6年生が協力して企画運営をしたことで、児童会行事を自分達の力で創り上げるよい経験となった。</li> <li>○鑑賞態度は、一つ一つの発表に対して、お互いのよさやがんばりを認め合い、あたたかい拍手を贈る雰囲気があった。</li> <li>●練習期間中、各担任が、発表内容の確認を十分にできていなかったり、準備物が間に合わなかったりするなどの状況があった。職員全体で文化祭に向けた準備を行っていく体制づくりが必要である。</li> </ul>